

その他のテーマ

入試研究の動向として、以上述べた分類には属さないその他の調査研究事項として、入試業務の情報処理、高校側等との懇談、国家試験などがある。これらについてその概要を述べる。

入試業務の遂行には電算機の活用が必須であるが、また高度の機密保持、正確・公正、迅速などが特に求められる。各大学では、電算機活用による正確・公正及び迅速な入試データ処理のための技術的な問題はもちろんのこと、厳格な機密保持のために特に意を用いている。そのため入試データの情報処理は、特別の委員会に属するごく少数の委員だけが関係するのが普通であり、入試データを試行錯誤的に処理・加工し、その結果を即時検討してきめの細かい選抜業務を行うことはほとんど不可能であった。ところが近年安価で性能のよいパソコンが各研究室レベルにまで普及し、その能力は少なくともかつての中型の電算機の性能に匹敵するようになっている。従って、上に述べた機密保持の条件が満たされさえすれば、技術的にはパソコンを利用してきめ細かい入試データ処理が可能となった。このような計算機利用環境の急激な変化に対応して、パソコン利用による入試データ処理の試みがいくつか報告された。ある大学では、昨年発表した入試データを視覚的に理解で

きるシステムの改訂版について報告し、また別の大学ではパソコン利用の技術的問題とともに機密保持をめぐる問題について報告した。さらに、他の大学では市販のパソコン用ソフトを入試データ処理に利用する試みについて報告した。

高校側等との懇談については、県下高校進路指導担当者との懇談会を開催した大学がある。受験機会の複数化、近く実施が予定されている新テストなど、大学入試制度が大きく変わりつつある現在、このような高校と大学の交流は今後もおおいに推進すべきであろう。

2つの医科大学が医師国家試験について報告した。これらの大学ではいずれも高校成績、入試成績、学内成績、国家試験成績(合格不合格)の相関調査を行い分析をしている。ひとつの医科大学では、医師国家試験の合格・不合格が医学部教育の成果を問う重要な評価目標であるとの認識から、国家試験の成績と共通1次、2次、専門課程などの成績との相関調査を行った。他の医科大学では同様の調査結果を分析した結論として、高等学校の調査書は信用できる。現役の入学者は留年率が低く、3浪以上、大学中退者の留年率が高い、などとしている。